

【基本情報】

教科	芸術 音楽	学年	1年	教科書	Tutti 音楽 I 改訂版 (教育出版)
科目	音楽 I	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	MUSIC NOTE 基礎から学ぶ高校音楽 (啓隆社)
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技を中心に授業を進めます。</li> <li>・内容は、歌唱 (独唱・合唱)、器楽演奏 (アルトリコーダー)</li> <li>・定期考査は実施しませんが、授業の中で実技テストと単元内容に応じた小テストを実施します。</li> <li>・鑑賞後は、確認テストを実施しますので、ストーリーや時代背景と楽曲の関係も把握しながら鑑賞しましょう。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜や音楽的基礎知識を理解して、表現 (歌唱・演奏) 出来る力を身につけることが出来る。</li> <li>・鑑賞を通して、より深く音楽を感じる力と音楽文化についての知識を身につけることが出来る。</li> </ul>				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱では、数種類の発声練習を用いて、個々の技術力を高め、豊かな声で歌唱できるよう取り組む。</li> <li>・表現 (歌唱や器楽) 分野では、基礎練習から楽曲演奏まで段階的に技術力を身につけるよう取り組む。</li> <li>・鑑賞分野では、作曲家の生涯を振り返り、作品と時代背景の結びつけを探求し幅広く音楽文化に触れる。</li> <li>・器楽演奏では、アルトリコーダーを使用しますので準備して下さい。</li> <li>・教科書、ミュージックノート、プリントファイルは、毎時間使いますので忘れないようにしてください。</li> </ul>				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書、ミュージックノート、プリントファイル、筆記用具は、毎回必ず使用します。</li> <li>・実技教科ですので、得意、不得意に限らず、積極的に授業に参加すること。</li> <li>・鑑賞の時は、心を落ち着け、じっくりと音楽を体の中に取り入れ、音楽の素晴らしさを体感する。</li> <li>・鑑賞後は、内容の確認テストがあるので、鑑賞時は、メモを取りながら鑑賞して下さい。</li> </ul>				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト前には、プリントやミュージックノートを復習する必要があるでしょう。(20分位)</li> </ul>				
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽演奏では、アルトリコーダーを実施しますので、4月中に準備しておいてください。 (中学校時代に購入した人は、それを使用しても構いません)</li> </ul>				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	毎時間、積極的に取り組み、得意、不得意に限らず、どの分野においても偏らず意欲的に取り組む。	30%	ノート作成の状況、発言状況を相対的に判断し、評価します。
B. 思考・判断・表現	表現 (歌唱や器楽) 分野で、基礎技術力を身につけ、楽曲を豊かに表現する。 楽譜を正確に読み取り、更に自分なりの表現を探求する。	30%	実技テストを通して、基礎力、表現力を評価します。
C. 資料活用能力	鑑賞を通して、作品を探求し、作曲家の生まれ育った国の特色や時代背景を考察し、歴史と関連付ける。 作品に込められた作曲家の意図を探求する。	10%	提出プリントの作成や小テストの状況を評価します。
D. 知識・理解	様々な作曲家について触れ、その生涯や時代背景、作品と関連づけ考察している。 楽典分野で、基礎的な音楽知識を身につけている。	30%	小テストを通して、理解状況を判断し評価します。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標	
			A	B	C	D	E		
楽典（基礎的音楽知識）	16	音楽を形成している様々な要素について学習し、楽譜や音符に関して理解し、表現（歌唱・演奏）できるよう取り組む。 □音名 □音符 □音楽用語 □五線譜の名称 □音程 □小テスト		○			○	授業内で実施する小テストで理解度、到達度を確認します。 表現（歌唱・演奏）するにあたって必要な事柄ですので、しっかりと確認することが大切です。	
表現（独唱）	8	基本的な発声（腹式呼吸・ベルカント唱法）を身につけ、日本語や外国語の発音の響きを大切にしながら、また、音楽的背景や文化的背景を理解しながら、豊かな表現を伴って独唱することが大切です。 □校歌 □日本歌曲 □イタリア歌曲 □ドイツ歌曲 □実技テスト	○	○				曲想と歌詞の内容・楽曲の時代背景と関連付けて歌唱できるようにする。 その国特有の発音を正しく発音し、イントネーションを大切にしながら歌唱する。 □実技テストの実施により、技術力の向上や表現力の豊かさを確認します。	
表現（合唱）	8	発声練習・パート練習・全体練習の流れで練習し、ハーモニー感を味わいながら合唱を完成していく。（個々の努力が不可欠ですので、積極的に取り組むように） □2重唱 □3重唱 など □合唱コンクール（審査）	○	○				パートの音楽的役割を理解し、ハーモニーや音楽表現を通して、合唱の素晴らしさを体感する。 1年間の集大成として、合唱コンクールを実施し、成果の発表をする。	
器楽（アルトリコーダー）	8	リコーダーの基本奏法を習得し、また、楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫しながら演奏することが大切です。 □音階 □練習曲 □楽曲 □実技テスト	○	○				様々な表現形態により、器楽の特徴を生かしながらイメージを持って演奏する。 □実技テストの実施により、技術力の向上や表現力の豊かさを確認します。	
鑑賞 （作曲家の生涯と作品）	24	楽曲の文化的背景や、作曲家や演奏者の表現についてその特徴や技術力を理解しながら鑑賞します。 また、各国・我が国の音楽や郷土の伝統音楽の種類と特徴を理解して鑑賞します。 □アマデウス □サウンド オブ ミュージック □海の上のピアニスト など □確認テスト					○	○	様々な演奏形態を鑑賞し、音楽と社会、音と生活について考察する。 □確認テストにより、内容把握や作曲家の意図するものやその時代背景との関連を探り、楽曲の完成度を味わう。

【基本情報】

教科	芸術	学年	1年	教科書	書道 I (教育出版)
科目	書道 I	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	墨心
科目概要	中学校国語科の書写における学習を基礎にして、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書及び鑑賞についての幅広い活動を展開し、芸術としての書の表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばすことなどを狙いとしており、書道研究における発展的な学習の基礎を養う科目です。				
到達目標	漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書及び鑑賞について幅広く活動し、芸術としての書の表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばします。				
授業の進め方	ほぼ毎時間、書道実技が中心です。 プリントや鑑賞、書道理論なども適宜織り交ぜます。				
留意事項	「継続は力なり」・・・ただ提出された作品のみでなく、追求する過程も評価します。 楽しく伸びやかな表現を目指します。 書道用具は、評価の公平を期すために、全員同じ物を使用します。 書道用具は、書道室内に保管します。 移動・準備は、休み時間中に完了させてください。				
家庭学習					
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 書への関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化の関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	10%	授業に対する姿勢や積極性を評価します。
B. 書表現の構想と工夫	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	20%	作品の変容の過程を評価します。 討論をする姿勢や、考えたことを伝えようとする積極性を評価します。
C. 創造的な書表現の技能	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけて表している。	60%	提出された作品を評価します。
D. 鑑賞の能力	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書の良さや美しさを創造的に味わっている。	10%	書の美しさを知識として理解しているか評価します。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
オリエンテーション	2	シラバスの説明 用具・用材の説明	○					1年間の授業内容を知る。
漢字仮名交じりの書1	2	中学校書写との連携	○		○	○		中学校書写を振り返る。
漢字の書1	6	臨書—木簡 作品制作	○	○	○	○		木簡の基礎を知り、親しむことができるようにする。
漢字の書2	6	篆書 篆刻 姓名印制作	○	○	○	○		篆書・篆刻方法を理解し、完成度の高い印を仕上げられるようにする。
漢字の書3	10	臨書—自由課題 作品制作（展覧会出品）	○	○	○	○		興味を持つ古典を選択し、調べ学習の後、特徴を表現することができるようにする。
漢字の書4	10	臨書—建中帖 作品制作	○	○	○	○		建中帖の特徴を理解し、表現できるようにする。 意欲的に知識や技術を得ようと活動する。
漢字の書5	6	臨書—蘭亭叙 作品制作	○	○	○	○		蘭亭叙の特徴を理解し、表現できるようにする。 意欲的に知識や技能を得ようと活動する。
漢字仮名交じりの書2	12	永訣の朝 作品制作	○	○	○	○		漢字仮名交じりの書の基本を理解し、表現できるようにする。 永訣の朝を理解し、詩情に合う表現を目指せるようにする。 意欲的に知識や技能を得ようと活動する。
仮名の書1	10	臨書—高野切第一種 作品制作	○	○	○	○		高野切第一種の特徴を理解できるようにする。 意欲的に知識や技能を得ようと活動する。

【基本情報】

教科	美術	学年	1年	教科書	高校生の美術1（日本文教出版）
科目	美術I	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	
科目概要	高校美術の基礎になる教科です。中学校で培われた能力を伸ばし、自然や自己を深く見つめることから表現や鑑賞の基礎となる能力を身につけ、美術に親しみ、愛好する心情を育てます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものをよく見て、感性を働かせて表現することができるようになる。</li> <li>・主題にあった表現方法を考え、工夫して表現できるようになる。</li> <li>・多種多様な美術作品に触れ、その良さを感じ取り、理解を深めることができる。</li> </ul>				
授業の進め方	ほぼ毎時間、実技が中心です。 プリントやDVD・スライド等による鑑賞をおこないます。				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技が中心なので、作品は出来る限り完成させて提出するようにしてください。</li> <li>・毎時間の取り組み姿勢を重視します。受け身にならず、集中して積極的に制作に取り組むようにしてください。</li> <li>・教科書、鉛筆（B、2B程度のもの）、消し具は毎回忘れずに用意してください。</li> <li>・絵の具、スケッチブックは美術室内に保管します。</li> </ul>				
家庭学習	基本的に必要ありませんが、作業が遅れて時間内に完成できない場合は、家庭での制作が必要となる場合もあります。				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	創造活動の喜びを味わい、多様な表現技法や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしているか。	20%	授業に取り組む姿勢や積極性を評価します。
B. 発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているか	30%	スケッチブック等のアイデアスケッチやメモ。作品の制作過程から評価します。
C. 創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能をも身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表しているか。	40%	提出された作品をもとに評価します。
D. 鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	10%	鑑賞ノートなどの提出物で評価します。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
オリエンテーション	1	・1年間の学習内容	○			○	1年間の学習内容について理解することができる。
鉛筆デッサン	9	・観察による表現 ・形のとらえ方 ・明暗の階調、量感表現	○ ○ ○		○ ○ ○		・ものをよく見て、部分と全体の関係をとらえることができる。 ・明暗の階調を正しくとらえ、ものの量感を表現することができる。
静物（アクリル画）	1 2	・観察による表現 ・バランス、構図、視点の高さ ・混色法、色彩の調和 ・アクリル絵の具の特徴、タッチ・マチエールの工夫	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○		・ものをよく観察し、混色により思う色を作り出すことができる。 ・バランスを考えて、構図をとることができる。 ・アクリル絵の具の特徴を理解して使うことができる。
鑑賞	2	・近現代の西洋美術の流れ	○			○	・近現代の西洋美術の流れについて理解し、代表的な作家について親しむことができる。
文字デザイン	8	・自分の今の心の状態を表す漢字一字を選び、そのイメージを表現する ・イメージに合った文字の形、配色の工夫 ・様々な表現方法の追求	○	○ ○ ○	○ ○ ○		・自分の心情を表すにふさわしい形、色彩を表現できる。 ・工夫して独自のイメージを追求することができる。
風景画（アクリル画）	1 6	・観察による表現、構図の工夫 ・自分らしさを表す工夫 ・色彩の表現効果 ・下地、タッチ、マチエールの工夫	○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		・自分をよく見つめ、自分らしさとは何かを考えて表現できる。 ・伝えたいイメージに合った色調や表現技法を工夫することができる。 ・アクリル絵の具の特徴を生かして表現することができる
映像鑑賞	2	・アニメーションの技法			○ ○	○	・アニメーションの技法を理解することができる。 ・物語の動きや見せ方の工夫を感じることができる。 ・発想や動きのおもしろさを感じ取ることができる。
鑑賞 近現代日本の美術	2	・近現代の日本美術について DVD 鑑賞	○			○	・近現代の日本美術の流れについて理解し、作品に親しむことができる。
石膏造形	1 2	・モチーフを自由に構成する ・立体造形の技法 ・明暗構成	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○		・モチーフからイメージを広げ、構成を工夫して表現できる。 ・明暗の対比を工夫して、美しい明暗構成を作り出すことができる。 ・石膏の性質を理解し、タッチや彫り方を工夫して表現することができる。

【基本情報】

教科	外国語	学年	1年	教科書	LANDMARK Fit English Communication I (啓林館)
科目	コミュニケーション英語 I	単位数 (年間予定コマ数)	3 (96)	副教材	英単語 STOCK 3000 (文英堂) 総合英語 EMPOWER MASTERY COURSE (桐原書店)
科目概要	中学校3カ年で学んだことを基礎にして聞く・話す・読む・書くといった言語活動を多様な場面において経験させながら、中学校および高等学校における学習内容を何度も繰り返しながら指導し、定着させていく。(副教材を使用しながら定期的に単語・熟語テストを実施)				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書で新しく学ぶ単語・熟語400語(句)を理解する。(語彙力)</li> <li>基本的な英文を理解して覚え、活用できるようにする。(英文力)</li> <li>英語で自分の考え・意見を言うことができる。(英語での表現力)</li> <li>多様な英文を決められた時間内で概要把握ができる。(速読力)</li> <li>ややゆっくりした速度の英文を聞き、大まかな内容を理解することができる。(リスニング力)</li> </ul>				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを使用しながら授業を進めていく。</li> <li>英語を読む・聞く・書く・話すという4技能のバランスを考えた授業展開を行う。</li> <li>ペア・グループによる活動場面を多く取り入れ、自己表現をしていく。</li> <li>音読の練習を積極的に取り入れ、英語の音声に慣れさせていく。</li> </ul>				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書・ファイル(ワークシートを保存)・辞典をいつも用意しておくこと。</li> <li>評価は4回の定期考査(中間・期末)・夏季・冬季休業明けの確認テスト・単語テスト・授業中のペアワーク・グループワークへの取り組み状況を基にして評価する。</li> <li>定期考査では10~20点の割合でリスニング問題を出題することもある。</li> <li>授業内でわからないことや疑問に思うことがあるときはその日のうちに質問し解決しておく。</li> </ul>				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>指示された課題は確実にこなし、復習に力を入れていく。</li> <li>音声CD, スマートフォン等のアプリを活用して、単語学習に毎日一定時間取り組むこと。</li> </ul>				
備考	英語検定等の資格試験も積極的に活用し、各自の英語力向上に役立てていくこと				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワーク・グループワークなどの言語活動に積極的に取り組んでいるか。</li> <li>ワークシートや課題をていねいに取り組み、示された期日内に提出できているか。</li> </ul>	20%	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディクテーションやリテリング、リーディングテストなど言語活動への積極的な取り組み</li> <li>教師の発問に対して積極的に発言しようとする態度</li> <li>課題の提出</li> </ul>
B. 外国語表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>各レッスンの概要やそれについての感想などを簡単な英語で表現することができるか。</li> <li>文法事項を正しく使って英語で表現することができるか。</li> </ul>	20%	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディクテーションやリテリング、リーディングテストなど言語活動</li> <li>課題の提出・発表</li> <li>定期考査(外国語表現)</li> </ul>
C. 外国語理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文を聞いたり読んだりし、その要点を理解することができるか。</li> <li>英文に含まれた文法事項を理解することができるか。</li> </ul>	20%	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価問題</li> <li>定期考査(外国語理解)</li> </ul>
D. 言語や文化についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>各レッスンで取り上げられた話題の背景知識や・内容を理解できるか。</li> <li>文化が異なる人々の考え方を理解できるか。</li> </ul>	40%	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査(知識・理解)</li> <li>評価問題</li> <li>単語テスト</li> </ul>

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
オリエンテーション および中学校英語の復習	3	・文を作る要素と品詞 ・文の種類 ・英語の文構造 ・句と節	○		○	○	・高校英語の学習に必要な既習事項が理解できる
Lesson 1 What Can Blood Type Tell Us?	8	・血液型に対する日本と外国の関心の違い それについての科学者の意見 ・血液型と性格の関連について意見交換 ・進行形・助動詞・受動態	○		○	○	・本文の概要・要点を捉えることができる ・本文の感想を英語／日本語で出し合うことができる ・進行形・助動詞・受動態の使い方が理解できる
Lesson 2 Curry Travels around the World	8	・カレーのルーツと日本に普及した経緯 ・食べ物について意見交換 ・動名詞 ・現在完了形 ・インタビュー／音読テスト	○		○	○	・本文の概要・要点を捉えることができる ・自分の好みについて英語で表現することができる ・動名詞・現在完了形（継続・経験・完了）の使い方が理解できる ・聞き手に伝わるような音読ができる
<前期中間考査> 前期中間考査まで20コマ	1			○	○	○	
Lesson 3 School Uniforms	8	・日本を含めた世界の制服事情 ・制服について意見交換 ・不定詞 ・比較	○		○	○	・本文の概要・要点を捉えることができる ・自分の意見を英語で表現することができる ・不定詞（名詞的用法）・比較（原級・比較級・最上級）の使い方が理解できる
Sound Practice 1/2		・リスニング問題					・英語音声の特徴について理解し、聞き取ることができる
Lesson 4 Gorillas and Humans	8	・ゴリラと人間との類似性やその生態 ゴリラの絶滅とスマートフォンとの関係 ・絶滅危惧種について意見交換 ・不定詞 ・It ～ to 不定詞の形式主語	○		○	○	・本文の概要・要点を捉えることができる ・自分の意見を英語で表現することができる ・不定詞（副詞的用法・形容詞的用法）・It ～ to 不定詞の形式主語の使い方が理解できる
<前期期末考査> 前期期末考査まで17コマ	1			○	○	○	
Lesson 5 "gr8" or great?	9	・英語圏の若者から生まれる新言語とそれが生まれる理由や影響 ・新種の言語について意見交換 ・関係代名詞 ・間接疑問文 It ～ that 節の形式主語構文	○		○	○	・本文の概要・要点を捉えることができる ・本文の内容を簡単な英文で要約することができる ・関係代名詞・間接疑問文・It ～ that 節の形式主語構文の使い方が理解できる
Lesson 6 Biodiesel Adventure	9	・廃食油で世界中をドライブする旅の経過 ・本文の旅について意見交換 ・分詞の形容詞的用法 ・過去完了形・関係代名詞 what	○		○	○	・トピックセンテンスを捉えながら英文を読むことができる ・自分の意見を英語で表現することができる ・分詞（過去分詞・現在分詞）の形容詞的用法・過去完了形 関係代名詞 what の使い方が理解できる
Sound Practice 3/4		・リスニング問題					・英語の音声の特徴について理解する
Lesson 7 Eco-tour on Yakushima	9	・屋久島の地理や気候 屋久島をまわるエコツアーの内容 ・屋久島について意見交換 ・S+V+O+to 不定詞 ・使役動詞 ・関係副詞 ・インタビュー／音読テスト	○		○	○	・トピックセンテンスを捉えながら英文を読むことができる ・環境問題に対する理解を深め、英文で要約することができる ・S+V+O+to 不定詞・使役動詞・関係副詞の使い方が理解できる ・聞き手に伝わるような音読ができる
<後期中間考査> 後期中間考査まで28コマ	1			○	○	○	
Lesson 8 Mariko Nagai, Super Interpreter	9	・通訳者の仕事内容や登場人物の仕事ぶり、仕事に対する姿勢 ・通訳の仕事や登場人物について観覧 ・知覚動詞 ・現在分詞の分詞構文	○		○	○	・トピックセンテンスを捉えながら英文を読むことができる ・自分の意見を英語で表現することができる ・知覚動詞・現在分詞の分詞構文（時・連続した動作）の使い方が理解できる
Lesson 9 Space Elevator	9	・宇宙エレベーターの実現性や仕組み、その利点や未来への展望 ・宇宙旅行や発明について意見交換 ・仮定法過去・助動詞を含む受動態 ・倍数表現・seem を使った表現	○		○	○	・トピックセンテンスを捉えながら英文を読むことができる ・物語文の展開を簡単に英語で説明することができる ・仮定法過去・助動詞を含む受動態・倍数表現・seem を使った表現が理解できる
Lesson 10 Friendship over Time	8	・トルコ軍艦座礁と日本との関係 トルコ航空機の日本人救出との関連 ・トルコや本文の事故事件について観覧	○		○	○	・トピックセンテンスを捉えながら英文を読むことができる ・歴史上の出来事について英語で説明することができる
<学年末考査> 後期期末考査まで27コマ	1			○	○	○	
Reading One Autumn Date 1年間のまとめ	4	・日本人留学生のアメリカでの初デートの経過や行き違い ・速読問題演習 ・単語・熟語の小テスト（毎週実施）	○		○	○	・トピックセンテンスを捉えながら英文を読むことができる 1年間の総復習
年間予定授業コマ数	96						

【基本情報】

教科	外国語	学年	1年	教科書	EMPOWER English Expression I MASTERY COURSE (桐原書店)
科目	英語表現 I	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	総合英語 EMPOWER MASTERY COURSE (桐原書店)
科目概要	基本的な言語規則に基づいて、様々な場面に応じて適切に話すことや書くことが出来るようにし、あわせて論理的思考力や批判的思考力を養うことをねらいとしている科目である。				
到達目標	英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>各ユニットのモデル会話文を通して、発音・イントネーション、重要表現、文化背景等について学習する。</li> <li>文法事項を体系的に学習し、基礎的な学力を身につける。</li> <li>テキストの各ユニットの例文についてはポイントを理解した上で、暗唱していく。</li> <li>リスニングやスピーキングの基礎になる音読練習を重視する。</li> <li>ユニットごとに設定したトピックについて、英語表現するトレーニングする。(書く・話す)</li> </ul>				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読練習やペアワークでは積極的に大きな声を出すこと。</li> <li>ノートを用意して、配布されたワークシートはノートに貼り付けるか、ファイル等にきちんと保存すること。</li> <li>授業の冒頭で単語集を使って練習を行う。</li> </ul>				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>指示された課題(自由英作文等)がある場合は確実に仕上げていく。</li> <li>授業中に練習した例文暗唱を自宅でも復習して、確実に使いこなすことができるようにする。</li> <li>英単語は正しい発音とともに身につけることが不可欠です。音声 CD・スマートフォン等のアプリを日常的に活用していくこと。</li> </ul>				
備考					

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワーク・グループワークなどの言語活動に積極的に取り組んでいるか。</li> <li>ワークシートや課題をていねいに取り組み、示された期限内に提出できているか。</li> </ul>	15%	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書内 Let's Talk での活動</li> <li>教科書内 From Grammar to Communication での活動</li> <li>課題の提出</li> </ul>
B. 外国語表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えや意見を簡単な英語で表現することができるか。</li> <li>文法事項を正しく使って英語で表現することができるか。</li> </ul>	15%	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書内 Grammar for Expression での活動</li> <li>教科書内 From Grammar to Communication での活動</li> <li>定期考査(外国語表現)</li> </ul>
C. 外国語理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文を聞いたり読んだりし、その要点を理解することができるか。</li> <li>英文に含まれた文法事項を理解することができるか。</li> </ul>	15%	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書内 Target や Listen での活動</li> <li>教科書内 From Grammar to Communication での活動</li> <li>定期考査(外国語理解)</li> </ul>
D. 言語や文化についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>各ユニットで取り上げた話題の背景知識や内容を理解した上で、英文を読むこと/聞くこと/書くこと/話すことに生かすことができるか。</li> </ul>	55%	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書内 Drills での活動</li> <li>教科書内 From Grammar to Communication での活動</li> <li>定期考査(知識・理解)</li> </ul>

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
○ part I Unit 0 Basics of English	2	英語の語順・品詞・句と節			○	○	・基本的な文法事項（中学での既習事項）を復習し、高校英語の土台を作る
Unit 1 I'll introduce my school	3	<話題>学校生活の紹介 <文法>文の構造（5文型）	○	○			・友人の紹介や感想を述べる英文を書くことができる ・5文型を理解して適切に使うことができる
Unit 2 Let's write our profiles!	3	<話題>自己紹介 <文法>時制	○	○			・過去のことや今後の計画を述べる英文を書くことができる ・時制を理解して適切に使うことができる
Unit 3 Let's talk about our favorite things!	3	<話題>興味・関心 <文法>現在完了形・過去完了形	○	○			・自分が体験したことを述べる英文を書くことができる ・現在完了形・過去完了形を理解して適切に使うことができる
Unit 4 When in Rome, do as the Romans do	3	<話題>習慣の違い <文法>助動詞	○	○			・相手への依頼や助言、過去を回想する英文を書くことができる ・助動詞を理解して適切に使うことができる
前期中間考査 (考査まで 計15コマ)	1			○	○	○	
Unit 5 Made in Japan	3	<話題>日本文化 <文法>受動態	○	○			・名所を紹介する英文や驚きの表現を書くことができる ・受動態を理解して適切に使うことができる
Unit 6 Planning the perfect vacation	3	<話題>旅行・留学 <文法>不定詞	○	○			・嬉しさの感情表現や希望や印象を述べる英文を書くことができる ・不定詞を理解して適切に使うことができる
Unit 7 How to spend your holidays	3	<話題>趣味・余暇 <文法>動名詞	○	○			・自分の好きなことや相手を勧誘する英文を書くことができる ・動名詞を理解して適切に使うことができる
Unit 8 Good manners and bad manners	3	<話題>マナー <文法>分詞	○	○			・苦情や体験、状況を説明する英文を書くことができる ・分詞の形容詞的用法や分詞構文を理解して適切に使うことができる
Unit 9 Let's learn about other countries!	3	<話題>日本と外国の比較 <文法>比較	○	○			・様々な比較表現を理解し、それを使って英文を書くことができる
前期期末考査 (考査まで 計16コマ)	1			○	○	○	
Unit 10 Let's introduce a World Heritage Site!	3	<話題>世界遺産 <文法>関係詞	○	○			・ある人物についての説明の英文や理由を述べる英文を書くことができる ・関係詞を理解して適切に使うことができる
Unit 11 How can we become more foreigner-friendly?	3	<話題>観光 <文法>仮定法	○	○			・相手への助言や自分の願望を述べる英文を書くことができる ・仮定法を理解して適切に使うことができる
Unit 12 What is your opinion?	3	<話題>メディア <文法>否定	○	○			・様々な否定表現を使って英文を書くことができる
Unit 13 Robots are our friends	3	<話題>科学技術 <文法>名詞構文・無生物主語	○	○			・原因を述べる英文を書くことができる ・名詞構文・無生物主語を理解して適切に使うことができる
○ part II Unit 1 How about sight-seeing in Chiba?	3	<話題>地域の紹介	○	○			・例を示して説明する英文を書くことができる
後期中間考査 (考査まで 計16コマ)	1			○	○	○	
Unit 2 Then and Now	4	<話題>若者の生活・今と昔	○	○			・2つのものを対比させた英文を書くことができる
Unit 3 How to make tonkatsu	4	<話題>レシピ	○	○			・順序を示した説明の英文を書くことができる
Unit 4 The Youngest Nobel Peace Prize winner	4	<話題>ノーベル平和賞	○	○			・原因や理由、結果を示した説明の英文を書くことができる
Unit 5 How about writing to a friend in English?	4	<話題>ペンフレンドの意義	○	○			・パラグラフの構成を意識した英文を書くことができる
後期期末考査 (考査まで 計17コマ)	1			○	○	○	
		週末課題（適宜実施） 各ユニットのまとめ・英作文など	○	○	○		
年間総予定授業コマ数	64						

【基本情報】

教科	外国語	学年	1年	教科書	
科目	SS英語 I (コミュニケーション英語 I 分野)	単位数 (年間予定コマ数)	3 (96)	副教材	LANDMARK Fit English Communication I (啓林館) 英単語 STOCK 3000 (文英堂) 総合英語 EMPOWER MASTERY COURSE (桐原書店)
科目概要	中学校3カ年で学んだことを基礎にして聞く・話す・読む・書くといった言語活動を多様な場面において経験させながら、中学校および高等学校における学習内容を何度も繰り返しながら指導し、定着させていく。(副教材を使用しながら定期的に単語・熟語テストを実施)				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書で新しく学ぶ単語・熟語400語(句)を理解する。(語彙力)</li> <li>基本的な英文を理解して覚え、活用できるようにする。(英文力)</li> <li>英語で自分の考え・意見を言うことができる。(英語での表現力)</li> <li>多様な英文を決められた時間内で概要把握ができる。(速読力)</li> <li>ややゆっくりした速度の英文を聞き、大まかな内容を理解することができる。(リスニング力)</li> </ul>				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを使用しながら授業を進めていく。</li> <li>英語を読む・聞く・書く・話すという4技能のバランスを考えた授業展開を行う。</li> <li>ペア・グループによる活動場面を多く取り入れ、自己表現をしていく。</li> <li>音読の練習を積極的に取り入れ、英語の音声に慣れさせていく。</li> </ul>				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書・ファイル(ワークシートを保存)・辞典をいつも用意しておくこと。</li> <li>評価は4回の定期考査(中間・期末)・夏季・冬季休業明けの確認テスト・単語テスト・授業中のペアワーク・グループワークへの取り組み状況を基にして評価する。</li> <li>定期考査では10~20点の割合でリスニング問題を出題することもある。</li> <li>授業内でわからないことや疑問に思うことがあるときはその日のうちに質問し解決しておく。</li> </ul>				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>指示された課題は確実にこなし、復習に力を入れていく。</li> <li>音声CD, スマートフォン等のアプリを活用して、単語学習に毎日一定時間取り組むこと。</li> </ul>				
備考	英語検定等の資格試験も積極的に活用し、各自の英語力向上に役立てていくこと				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワーク・グループワークなどの言語活動に積極的に取り組んでいるか。</li> <li>ワークシートや課題をていねいに取り組み、示された期日内に提出できているか。</li> </ul>	20%	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディクテーションやリテリング、リーディングテストなど言語活動への積極的な取り組み</li> <li>教師の発問に対して積極的に発言しようとする態度</li> <li>課題の提出</li> </ul>
B. 外国語表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>各レッスンの概要やそれについての感想などを簡単な英語で表現することができるか。</li> <li>文法事項を正しく使って英語で表現することができるか。</li> </ul>	20%	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディクテーションやリテリング、リーディングテストなど言語活動</li> <li>課題の提出・発表</li> <li>定期考査(外国語表現)</li> </ul>
C. 外国語理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文を聞いたり読んだりし、その要点を理解することができるか。</li> <li>英文に含まれた文法事項を理解することができるか。</li> </ul>	20%	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価問題</li> <li>定期考査(外国語理解)</li> </ul>
D. 言語や文化についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>各レッスンで取り上げられた話題の背景知識や・内容を理解できるか。</li> <li>文化が異なる人々の考え方を理解できるか。</li> </ul>	40%	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査(知識・理解)</li> <li>評価問題</li> <li>単語テスト</li> </ul>

【年間計画】

単元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
オリエンテーション および中学校英語の復習	4	・文を作る要素と品詞 ・文の種類 ・英語の文構造 ・句と節	○		○	○	・高校英語の学習に必要な既習事項が理解できる
Lesson 1 What Can Blood Type Tell Us?	7	・血液型に対する日本と外国の関心の違い それについての科学者の意見 ・血液型と性格の関連について意見交換 ・進行形・助動詞・受動態	○		○	○	・本文の概要・要点を捉えることができる ・本文の感想を英語／日本語で出し合うことができる ・進行形・助動詞・受動態の使い方が理解できる
Lesson 2 Curry Travels around the World	8	・カレーのルーツと日本に普及した経緯 ・食べ物について意見交換 ・動名詞 ・現在完了形  ・インタビュー／音読テスト	○		○	○	・本文の概要・要点を捉えることができる ・自分の好みについて英語で表現することができる ・動名詞・現在完了形（継続・経験・完了）の使い方が理解できる ・聞き手に伝わるような音読ができる
<前期中間考査> 前期中間考査まで20コマ	1			○	○	○	
Lesson 3 School Uniforms	8	・日本を含めた世界の制服事情 ・制服について意見交換 ・不定詞 ・比較	○		○	○	・本文の概要・要点を捉えることができる ・自分の意見を英語で表現することができる ・不定詞（名詞的用法）・比較（原級・比較級・最上級）の使い方が理解できる
Sound Practice 1/2		・リスニング問題					・英語音声の特徴について理解し、聞き取ることができる
Lesson 4 Gorillas and Humans	8	・ゴリラと人間との類似性やその生態 ゴリラの絶滅とスマートフォンとの関係 ・絶滅危惧種について意見交換 ・不定詞 ・It ~ to 不定詞の形式主語	○		○	○	・本文の概要・要点を捉えることができる ・自分の意見を英語で表現することができる ・不定詞（副詞的用法・形容詞的用法）・It ~ to 不定詞の形式主語の使い方が理解できる
<前期期末考査> 前期期末考査まで17コマ	1			○	○	○	
Lesson 5 "gr8" or great?	8	・英語圏の若者から生まれる新言語とそれが生まれる理由や影響 ・新種の言語について意見交換 ・関係代名詞 ・間接疑問文 It ~ that 節の形式主語構文	○		○	○	・本文の概要・要点を捉えることができる ・本文の内容を簡単な英文で要約することができる ・関係代名詞・間接疑問文・It ~ that 節の形式主語構文の使い方が理解できる
Lesson 6 Biodiesel Adventure	8	・廃食油で世界中をドライブする旅の経過 ・本文の旅について意見交換 ・分詞の形容詞的用法 ・過去完了形・関係代名詞 what	○		○	○	・トピックセンテンスを捉えながら英文を読むことができる ・自分の意見を英語で表現することができる ・分詞（過去分詞・現在分詞）の形容詞的用法・過去完了形関係代名詞 what の使い方が理解できる
Sound Practice 3/4		・リスニング問題					
Lesson 7 Eco-tour on Yakushima	8	・屋久島の地理や気候 屋久島をまわるエコツアーの内容 ・屋久島について意見交換  ・S+V+O+to 不定詞 ・使役動詞 ・関係副詞 ・インタビュー／音読テスト	○		○	○	・トピックセンテンスを捉えながら英文を読むことができる ・環境問題に対する理解を深め、英文で要約することができる ・S+V+O+to 不定詞・使役動詞・関係副詞の使い方が理解できる。 ・聞き手に伝わるような音読ができる
<後期中間考査> 後期中間考査まで25コマ	1			○	○	○	
S S 科学英語講読	5	・科学英語に関する基礎的な英単語、理科実験や科学英語の独特な表現を学び、科学英語を読む力や英語での理科実験の基礎力をつける	○		○	○	・理科系で用いる専門用語、独特な表現を学び、英語での理科実験等が実施できる
Lesson 8 Mariko Nagai, Super Interpreter	8	・通訳者の仕事内容や登場人物の仕事ぶり、仕事に対する姿勢 ・通訳の仕事や登場人物について観交 ・知覚動詞 ・現在分詞の分詞構文	○		○	○	・トピックセンテンスを捉えながら英文を読むことができる ・自分の意見を英語で表現することができる ・知覚動詞・現在分詞の分詞構文（時・連続した動作）の使い方が理解できる
Lesson 9 Space Elevator	8	・宇宙エレベーターの実現性や仕組み、その利点や未来への展望 ・宇宙旅行や発明について意見交換 ・仮定法過去・助動詞を含む受動態 ・倍数表現・seem を使った表現	○		○	○	・トピックセンテンスを捉えながら英文を読むことができる ・物語文の展開を簡単に英語で説明することができる ・仮定法過去・助動詞を含む受動態・倍数表現・seem を使った表現が理解できる。
Lesson 10 Friendship over Time	8	・トルコ軍艦座礁と日本との関係 トルコ航空機の日本人救出との関連 ・トルコや本文の事故事件について観交	○		○	○	・トピックセンテンスを捉えながら英文を読むことができる ・歴史上の出来事について英語で説明することができる
<学年末考査> 後期期末考査まで30コマ	1			○	○	○	
Reading One Autumn Date 1年間のまとめ	4	・日本人留学生のアメリカでの初デートの経過や行き違い ・速読問題演習  ・単語・熟語の小テスト（毎週実施）	○		○	○	・トピックセンテンスを捉えながら英文を読むことができる  1年間の総復習
年間予定授業コマ数	96						

【基本情報】

教科	外国語	学年	1年	教科書	
科目	SS英語 I (英語表現 I 分野)	単位数 (年間予定コマ数)	1 (64)	副教材	EMPOWER English Expression I MASTERY COURSE (桐原書店) 総合英語 EMPOWER MASTERY COURSE (桐原書店)
科目概要	基本的な言語規則に基づいて、様々な場面に応じて適切に話すことや書くことが出来るようにし、あわせて論理的思考力や批判的思考力を養うことをねらいとしている科目である。				
到達目標	英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>各レッスンのモデル会話文を通して、発音・イントネーション、重要表現、文化背景等について学習する。</li> <li>文法事項を体系的に学習し、基礎的な学力を身につける。</li> <li>テキストの各レッスンの例文についてはポイントを理解した上で、暗唱していく。</li> <li>リスニングやスピーキングの基礎になる音読練習を重視する。</li> <li>レッスンごとに設定したトピックについて、英語表現するトレーニングする。(書く・話す)</li> </ul>				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読練習やペアワークでは積極的に大きな声を出すこと。</li> <li>ノートを用意して、配布されたワークシートはノートに貼り付けるか、ファイル等にきちんと保存すること。</li> <li>授業の冒頭で単語集を使って練習を行う。</li> </ul>				
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>指示された課題(自由英作文等)がある場合は確実に仕上げていく。</li> <li>授業中に練習した例文暗唱を自宅でも復習して、確実に使いこなすことができるようにする。</li> <li>英単語は正しい発音とともに身につけることが不可欠です。音声 CD・スマートフォン等のアプリを日常的に活用していくこと。</li> </ul>				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワーク・グループワークなどの言語活動に積極的に取り組んでいるか。</li> <li>ワークシートや課題をていねいに取り組み、示された期限内に提出できているか。</li> </ul>	15%	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書内 Let's Talk での活動</li> <li>教科書内 From Grammar to Communication での活動</li> <li>課題の提出</li> </ul>
B. 外国語表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えや意見を簡単な英語で表現することができるか。</li> <li>文法事項を正しく使って英語で表現することができるか。</li> </ul>	15%	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書内 Grammar for Expression での活動</li> <li>教科書内 From Grammar to Communication での活動</li> <li>定期考査(外国語表現)</li> </ul>
C. 外国語理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>英文を聞いたり読んだりし、その要点を理解することができるか。</li> <li>英文に含まれた文法事項を理解することができるか。</li> </ul>	15%	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書内 Target や Listen での活動</li> <li>教科書内 From Grammar to Communication での活動</li> <li>定期考査(外国語理解)</li> </ul>
D. 言語や文化についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>各ユニットで取り上げた話題の背景知識や内容を理解した上で、英文を読むこと/聞くこと/書くこと/話すことに生かすことができるか。</li> </ul>	55%	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書内 Drills での活動</li> <li>教科書内 From Grammar to Communication での活動</li> <li>定期考査(知識・理解)</li> </ul>

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
○ part I							
Unit 0 Basics of English	2	英語の語順・品詞・句と節			○	○	・基本的な文法事項（中学での既習事項）を復習し、高校英語の土台を作る
Unit 1 I'll introduce my school	3	<話題>学校生活の紹介 <文法>文の構造（5文型）	○	○			・友人の紹介や感想を述べる英文を書くことができる ・5文型を理解して適切に使うことができる
Unit 2 Let's write our profiles!	3	<話題>自己紹介 <文法>時制	○	○			・過去のことや今後の計画を述べる英文を書くことができる ・時制を理解して適切に使うことができる
Unit 3 Let's talk about our favorite things!	3	<話題>興味・関心 <文法>現在完了形・過去完了形	○	○			・自分が体験したことを述べる英文を書くことができる ・現在完了形・過去完了形を理解して適切に使うことができる
Unit 4 When in Rome, do as the Romans do	3	<話題>習慣の違い <文法>助動詞	○	○			・相手への依頼や助言、過去を回想する英文を書くことができる ・助動詞を理解して適切に使うことができる
前期中間考査 (考査まで 計15コマ)	1			○	○	○	
Unit 5 Made in Japan	3	<話題>日本文化 <文法>受動態	○	○			・名所を紹介する英文や驚きの表現を書くことができる ・受動態を理解して適切に使うことができる
Unit 6 Planning the perfect vacation	3	<話題>旅行・留学 <文法>不定詞	○	○			・嬉しさの感情表現や希望や印象を述べる英文を書くことができる ・不定詞を理解して適切に使うことができる
Unit 7 How to spend your holidays	3	<話題>趣味・余暇 <文法>動名詞	○	○			・自分の好きなことや相手を勧誘する英文を書くことができる ・動名詞を理解して適切に使うことができる
Unit 8 Good manners and bad manners	3	<話題>マナー <文法>分詞	○	○			・苦情や体験、状況を説明する英文を書くことができる ・分詞の形容詞的用法や分詞構文を理解して適切に使うことができる
Unit 9 Let's learn about other countries!	3	<話題>日本と外国の比較 <文法>比較	○	○			・様々な比較表現を理解し、それを使って英文を書くことができる
前期期末考査 (考査まで 計16コマ)	1			○	○	○	
Unit 10 Let's introduce a World Heritage Site!	3	<話題>世界遺産 <文法>関係詞	○	○			・ある人物についての説明の英文や理由を述べる英文を書くことができる ・関係詞を理解して適切に使うことができる
Unit 11 How can we become more foreigner-friendly?	3	<話題>観光 <文法>仮定法	○	○			・相手への助言や自分の願望を述べる英文を書くことができる ・仮定法を理解して適切に使うことができる
Unit 12 What is your opinion?	3	<話題>メディア <文法>否定	○	○			・様々な否定表現を使って英文を書くことができる
Unit 13 Robots are our friends	3	<話題>科学技術 <文法>名詞構文・無生物主語	○	○			・原因を述べる英文を書くことができる ・名詞構文・無生物主語を理解して適切に使うことができる
○ part II							
Unit 1 How about sight-seeing in Chiba?	3	<話題>地域の紹介	○	○			・例を示して説明する英文を書くことができる
後期中間考査 (考査まで 計16コマ)	1			○	○	○	
Unit 2 Then and Now	4	<話題>若者の生活・今と昔	○	○			・2つのものを対比させた英文を書くことができる
Unit 3 How to make tonkatsu	4	<話題>レシピ	○	○			・順序を示した説明の英文を書くことができる
Unit 4 The Youngest Nobel Peace Prize winner	4	<話題>ノーベル平和賞	○	○			・原因や理由、結果を示した説明の英文を書くことができる
Unit 5 How about writing to a friend in English?	4	<話題>ペンフレンドの意義	○	○			・パラグラフの構成を意識した英文を書くことができる
後期期末考査 (考査まで 計17コマ)	1			○	○	○	
		週末課題（適宜実施） 各ユニットのまとめ・英作文など	○	○	○		
年間総予定授業コマ数	64						

【基本情報】

教科	家庭	学年	1年	教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍 311）
科目	家庭基礎	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	オールガイド食品成分表2020（実教出版）
科目概要	「自分らしい人生をつくる」では自分自身の人生について見つけ、協力してつくる家庭生活や家庭と社会との関係について学びます。「子どもと共に育つ」「高齢社会を生きる」では、人に配慮した生活ができることを目指し、子どもや高齢者、障がいがある人を理解し、すべての人々がより良く生きることを考えます。「衣生活をつくる」「食生活をつくる」「住生活をつくる」「経済生活を営む」では生活を科学的に理解し、生活に応用できる技術を身につけます。				
到達目標	<p>①自分の生活を見直す力 自分自身のライフスタイルを生活時間、金銭管理、健康管理、環境管理などの面から見直し、実践できる。</p> <p>②適切な意志決定する力 生活を科学的に理解し、生活のあらゆる場面で適切に対応し、行動する力を身につける。</p> <p>③生活を実際につくっていく技術 手を使ってのものにはたらきかけ、目耳鼻舌など五官を使って実物にふれ、体験を通して応用できる生活技術を身につける。</p> <p>④家族や人々とかかわる力 家族や地域社会の人々とともに生きるために必要な知識とコミュニケーション能力、支援能力を身につける。</p>				
授業の進め方	授業形態は一斉とグループ学習。 基本的に、座学はホームルーム教室、実習は調理教室・被服室へ移動。				
留意事項	教科書、ノート、A4版ファイル（家庭基礎用）、食生活分野では食品成分表を準備する。 調理実習時はエプロン、三角巾、ハンカチ、ティッシュ、実習記録プリント、ペンのみ持参する。 自分自身の生活と関連づけるとともに、他者ともつながりながら学習する。 実習中は安全面に留意し、グループで協力し、能率良く作業を進める。 家庭生活と社会の関わりを理解するため、新聞・ニュースに関心を持つ。 マナーを守り、けじめある態度で授業に臨む。				
家庭学習	毎日の生活そのものが学習です。身の回りで起こっていることや、困っていること、良くしたいことなどの問題を挙げ、解決のための計画・実践が家庭科の学習を発展させていきます。毎回の授業を大切にし、提出物を確実に出すこと。				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	20%	課題学習の提出物、提出状況、実習に臨む態度
B. 思考・判断	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて見直し、課題見つけ、その解決を目指して思考を深めている。	20%	定期考査、課題学習の提出物
C. 技能・表現	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身につけている。	30%	被服製作品、調理実習、視聴覚教材視聴後のレポート
D. 知識・理解	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。	30%	定期考査
E.		%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
第1章 自分らしい人生をつくる	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭基礎を学ぶにあたって</li> <li>・生きていくには何が必要か?</li> <li>・自立について</li> <li>・性別役割分業意識</li> <li>・家族とは?</li> <li>・赤ちゃんが減っていく</li> <li>・結婚相手はどんな人</li> <li>・ジェンダー</li> <li>・女も男も「仕事も家庭も」</li> <li>・働くということ</li> <li>・民法・婚姻について</li> <li>・夫婦別姓を導入すべきか</li> <li>・これからの自分を考える</li> </ul>	○	○				<p>今までの自分を客観的に振り返る。</p> <p>キャリア教育と関連させ、これからの自分を考える。</p> <p>現代家族の特徴や機能について、歴史的・文化的・社会的変化と関連させて理解する。</p> <p>家族の法律について理解する。</p> <p>民法についての規定をめぐる論議でなにが問題なのか課題意識持つ。</p> <p>よりよい男女関係や家庭生活について考える。</p>
第2章 子どもと共に育つ	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤ちゃんのからだ</li> <li>・子どもに絵を描いてもらおう</li> <li>・乳幼児保育の意義</li> <li>・子どもの育ち方の特徴</li> <li>・子どもが育つ環境</li> <li>・出生前診断をどう思う?</li> </ul>		○	○			<p>乳幼児期の心身の特徴と発達について理解する。</p> <p>子どもは、親や保育者と強い愛着関係で結ばれ、周りの人々とのかかわりの中で育つことを理解する。</p> <p>生命倫理上の課題から、自他の生命尊重について考えを深め自己の意志決定に基づき、責任を持った行動することを自覚する。</p>
第3章 高齢社会を生きる 第4章 共に生き、共に支える	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症を学び地域を支える</li> <li>・高齢社会の将来像</li> </ul>	○	○	○			<p>日本の高齢社会の現状を把握する。</p> <p>高齢者の心身の特徴を知る。</p> <p>高齢者を支える仕組みを理解する。</p> <p>高齢社会の課題を知り、地域社会の一員としての役割を考える。</p>
前期期末考査	1							
第6章 衣生活をつくる	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服の起源</li> <li>・制服の役割</li> <li>・衣服材料の種類と特徴</li> <li>・洗濯の科学・衣服の選択</li> <li>・基礎縫い</li> <li>・エプロン製作</li> </ul>		○	○	○		<p>被服は何のために着るのか、被服は生活活動にどのように役立っているのか理解する。</p> <p>健康で安全、快適な衣生活を送るため、賢く被服を選択し、衣服を取り扱うことができる。</p> <p>基礎縫いを習得し、調理実習で使用するエプロンを製作することができる。</p>
第7章 住生活をつくる	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住生活をデザイン</li> </ul>		○	○			<p>住居の機能やライフステージごとの住要求を理解し、住計画を立てることができる。</p>
第5章 食生活をつくる	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ食べるのか</li> <li>・5大栄養素のはたらき</li> <li>・何をどれだけ食べるのか</li> <li>・調理実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>① ピザ</li> <li>② 親子どんぶり 吸い物</li> <li>③ 青椒炒牛肉糸 清湯三糸</li> <li>④ ロールケーキ</li> </ul> </li> </ul>		○	○	○		<p>食をめぐる課題について知り、よりよい食生活を実践できる。</p> <p>栄養素のはたらきを知り、健康に過ごすための食生活に役立たせることができる。</p> <p>調理することで食べ物になることを理解し、調理技術を身につける。</p> <p>配膳・盛りつけの方法を身につけ、心豊かな食事の演出を心がける。</p>
後期末考査	1			○	○			
第8章 経済生活を営む	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家計のしくみ</li> <li>・卒業後の生活設計</li> <li>・社会への扉</li> </ul>		○	○	○		<p>収入と支出の実態を知り、ライフステージ全体を見通して、収入を計画的に使えるようにする。</p> <p>現代の消費生活の特徴を理解し、自立した消費者を目指す。</p>
総予定授業コマ数	64							

【基本情報】

教科	情報	学年	普通科 理数科 1年	教科書	最新 社会と情報 新訂版 (実教出版)
科目	社会と情報	単位数 (年間予定コマ数)	1 (32)	副教材	最新 社会と情報 新訂版 学習ノート
科目概要	<p>情報は、2003年度より、新設された情報教育を行うための必修教科であり、「情報と社会」「情報の科学」から1科目2単位を選択し、履修する教科である。本校ではより基礎・基本的な内容を取り扱う「情報と社会」を履修する。</p> <p>2020年度より、2単位のうち1単位を「データサイエンス」として履修している。</p>				
到達目標	<p>この科目の目標は情報社会に積極的に参画する態度を育てることである。その際、情報を活用し表現する視点から情報の特徴や情報社会の課題について、情報モラルや望ましい情報社会の構築の視点から情報化が社会に及ぼす影響について理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うために必要な基礎的な知識と技能を習得する。</p>				
授業の進め方	<p>座学2割・実習8割程度の割合で授業を進めます。授業の最初には入力練習を行い、コンピュータ入力に慣れることを目指します。実習ではワープロソフト・表計算ソフト・電子メール・プレゼンテーションソフトを扱います。ワープロソフト・表計算ソフトでは情報の蓄積・分析・加工の手段の1つとして少しでも活用できることを目指します。電子メールの実習では電子メールソフトの設定をし、実際にメールのやりとりを行い、仕組みを少しでも理解することを目指します。座学のキーワードは「著作権」「標本化」「量子化」「電子メール」「知的財産の保護」「コミュニケーション」です。</p>				
留意事項	<p>①教科書は授業ですべてを触れないので、各自で該当の範囲を学習すること。                  ②実習中は私語を慎み、作業に取り組むこと。                  ③保存に失敗した場合は必ず申し出ること                  ④実習中は遠慮無く質問をすること。                  ⑤パソコンのトラブル等何かあれば連絡してください。</p>				
家庭学習	<p>・情報メディア（スマートホン等）などに関するテレビ番組・書籍などに興味を持ち、その有効性や危険性について普段から学ぶ姿勢を持ちましょう。                  ・インターネットの技術などに興味を持ち、ただ利用するだけでなく、その仕組みはどのようになっているかなどそれぞれの機会に応じて学習してください。</p>				
備考	<p>下記の4観点を100点の評価点で換算し、評価をつけます。                  おおよそ評価点により次のように評価をします。                  ～50点「1」 50～60「2」 60～75「3」 75～90「4」 90～「5」</p>				

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価の観点
A. 関心・意欲・態度	基本的に授業に臨む態度(服装や整理整頓を含む)等で評価します。	15%	情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとしているか。
B. 思考・判断・表現	実習で作成したデータ、提出物等で評価します。	15%	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現しているか。
C. 技能	実習での普段の取り組みを含めて、作成したデータ等で評価します。	20%	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技術を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っているか。
D. 知識・理解	基本的に定期考査で評価します。	50%	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解しているか。
E.		%	

【年間計画①】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
情報社会	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報や知識についての意味を理解する。</li> <li>・情報のデジタル化によるコミュニケーションの変化を理解する。</li> <li>・情報化が人類に利益と幸福をもたらしていることについて理解する。</li> <li>・情報化の「影」について、高校生 に身近な事例で理解する。</li> </ul>	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化の光と影について理解し、具体例を示すことができるか。</li> </ul>
情報モラルと社会のルール	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の意味と個人情報保護法について理解する。</li> <li>・個人情報の漏洩の実態、防止対策について学ぶ。</li> <li>・メールや SNS を利用する際のモラルとマナーについて学ぶ。</li> <li>・有害サイト、チェーンメール等、特に携帯電話利用の注意点を理解する。</li> <li>・出会い系サイト規制法など、情報社会に係わる大切な法律について理解する。</li> <li>・自己の責任を自覚し、他者の権利を尊重する態度を身に付ける。</li> <li>・知的財産権の構成について理解する。</li> <li>・産業財産権の種類と内容について事例を通じて理解する。</li> <li>・著作権の構成と各権利の内容、及び例外規定について理解する。</li> <li>・著作権の侵害事例について理解し、著作権法を守る態度を身に付ける。</li> </ul>	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の概念や、個人情報保護について理解しているか。</li> <li>・知的財産の体系を理解しているか。</li> <li>・産業財産権と著作権の種類と内容を理解しているか。</li> <li>・著作権の例外規定を理解しているか。</li> <li>・インターネットに係わる各種法律を理解しているか。</li> </ul>
コミュニケーション	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の進歩によるメディアの発達の歴史について理解する。</li> <li>・メディアの変遷によるメリット・デメリットについて理解する。</li> <li>・発信者と受信者の人数・位置関係によるコミュニケーションの分類について理解する。</li> <li>・同期・非同期によるコミュニケーションの分類について理解する。</li> <li>・電子メールやメーリングリストを利用する時のルールとマナーを理解する。</li> <li>・電子掲示板を利用する時のルールとマナーを理解する。</li> </ul>	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアの発達史に関する知識をもっているか</li> <li>・コミュニケーションの各種の分類や形態を理解しているか</li> <li>・電子メールや電子掲示板を利用する際のルールやマナーの知識を持っているか</li> </ul>
ネットワーク	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パケット交換方式の長所と短所について理解する。</li> <li>・コミュニケーションを行う時のプロトコルについて学ぶ</li> <li>・TCP/IP について理解する。</li> <li>・IP アドレスやドメインについて学び、実習で IP アドレスを確かめる。</li> <li>・WWW について学び、ブラウザで Web ページを表示する仕組みについて理解する。</li> <li>・電子メールの仕組みについて学ぶ。</li> <li>・転送速度とデータ量の基本的な計算ができるようにする。</li> <li>・デジタル情報の圧縮について理解する。</li> </ul>	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットのプロトコル及び LAN の基本知識があるか。</li> <li>・インターネットの基本的なサービスの内容と利用方法を理解しているか。</li> <li>・ネットワークの転送速度とデータ圧縮に関する知識があるか。</li> </ul>
情報表現の工夫	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報伝達する際の留意点について学ぶ。</li> <li>・ワープロソフトの基本的な使い方について学ぶ</li> <li>・チラシや案内状の作成を通じてわかりやすい情報伝達について学ぶ。</li> <li>・企画書の作成を通じて、文字・表・図形・画像などを工夫して利用する。</li> </ul>	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を伝達する際の注意事項について理解しているか。</li> <li>・チラシや企画書を改善する方法について理解しているか。</li> </ul>

【年間計画②】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
情報機器とデジタル	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アナログとデジタルの意味について理解する。</li> <li>・デジタル化のメリットについて理解する。</li> <li>・情報機器の種類と特徴、インターフェースについて学ぶ。</li> <li>・デジタルカメラの原理や画像・映像の処理について学ぶ。</li> </ul>	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・アナログとデジタルの概念とその相違を理解しているか。</li> <li>・情報機器の種類と特徴について理解しているか。</li> </ul>
デジタル表現	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を2進数で表現することについて理解する。</li> <li>・情報量の概念と単位について理解する。</li> <li>・2進数・10進数・16進数の相互変換ができるようにする。</li> <li>・文字のデジタル表現について理解する。</li> <li>・音声の標本化、量子化、符号化について理解する。</li> <li>・周波数・周期の関係や、標本化定理について理解する。</li> <li>・デジタルでの音表現の原理について学ぶ。</li> <li>・画像のデジタル化の仕組みと、解像度と階調と画質の関係を理解する。</li> <li>・図形のデジタル表現について理解する。</li> <li>・音声のデータ量を求めることができるようにする。</li> </ul>	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・2進数と情報量について理解しているか。</li> <li>・2進数・10進数・16進数の相互変換の方法を理解しているか。</li> <li>・数値・文字・音声・画像など、情報のデジタル化の原理を理解しているか。</li> <li>・音声、画等のデータ量を計算できるか。</li> </ul>
情報セキュリティ	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータウイルスの種類や被害の状況、及びその対策について理解する。</li> <li>・情報の暗号方式（共通鍵方式と公開鍵方式）について理解する。</li> <li>・情報のフィルタリングについて理解する。</li> <li>・企業や組織のセキュリティ対策の必要性を理解する。</li> </ul>	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティ対策の必要性を理解しているか。</li> </ul>
前期期末考査 (考査まで28コマ)	1			○	○	○		
表計算ソフトの利用	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表計算ソフトへのデータ入力について実習で学ぶ。</li> <li>・相対参照と絶対参照の使い分けについて実習で学ぶ。</li> <li>・各種のグラフとその特徴について学ぶ。</li> <li>・表計算ソフトを使ってグラフを作成する。</li> <li>・表計算を利用してデータの並べ替えができるようにする。</li> <li>・表計算を利用してデータの抽出ができるようにする。</li> <li>・表計算ソフトの関数の利用について理解する。</li> <li>・SUM, IFなどの関数を利用してデータの統計や、条件のある計算を実習で習得する。</li> <li>・表計算ソフトの検索用関数(VLOOKUP関数等)を利用して、条件に合ったデータの検索について実習で学ぶ。</li> </ul>	○	○	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフの種類や機能についての知識を持ち、適切に利用できるか。</li> <li>・目的に応じて数値の変化や割合などをグラフで表現する知識があるか。</li> <li>・条件に合わせて関数を選択して利用するための知識があるか。</li> </ul>

※このシラバスは、あくまで予定を示したもので、状況により時間配分や内容などを変更することがある。

【基本情報】

教科情報	学年	1年	教科書	なし
科目	データサイエンス	単位数 (年間予定コマ数)	後期 1 (32)	副教材 なし
科目概要	①探究基礎：「探究基礎」を行う上で必要なデータ処理や情報分析、グラフ作成演習を行う。 ②データサイエンステスト：学習内容が理解できたかを見るための確認テストを実施します。			
到達目標	①「探究基礎」の内容を検証し、中身を深める。 ②グループで情報を集めて共有し、全体で発表することで、「データサイエンス」分野の知識・理解を深める。			
授業の進め方	・「探究基礎」の授業と連携してグループごとに計画を立てて実施します。 ・最後に、学習内容が理解できたかを見るための確認テストを実施します。			
留意事項	・グループ内での活動を重視し、お互いに協力して活動する。 ・グループにかかわらず、積極的に意見を交わしたり議論をする。			
家庭学習	・探究を進めるに当たって、必要な情報や資料を積極的に集めたり、大学や専門機関と積極的に連携することを推奨する。			
備考				

【評価の方法】

観点	ポイント	割合	評価項目
A. 探究する力	物事の中から問題を見だし、解決方法を探して計画を立てようとしている。	25%	「探究基礎」では活動ごとのレポートによる評価 「データサイエンス」においては作成した資料の評価、発表の評価、確認テストによる評価。
B. 対話する力	情報をもとに自分の考えを形成し、文章や発言によって表現しようとしている。	25%	
C. 協働して創り出す力	思いや考えをもとに構成し、個人や集団としての考えを形成しようとしている。	25%	
D. 自律して活動する心	互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解しようとしている。	25%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
1 テーマ設定 とグループ活動	6	普通科動物園巡検	○	○			動物園内で疑問に感じたことを写真に撮り、個人の研究デザイン作成の題材とする
	2	問題発見・デザインの作成①	○	○	○		自分独自の研究デザイン（研究課題は自由）をまとめることができる
	2	デザインの作成②	○	○	○		
	2	旭川市出前講座	○	○	○	○	旭川市総合計画の理解を深め、地域の問題解決に寄与する意識を高めるとともに、地域経済分析システムの利用法を学び、ビッグデータを活用する力の向上を図ることができる
	2	論文購読演習	○	○	○		論文の研究課題や研究方法、考察、結論を読み取り、グループ内で発表することで、論文の内容を理解することができる
	2	論文購読演習	○	○	○		
	2	データ処理・グラフ作成演習		○	○		実験や地域経済分析システムなどから得られたデータをコンピュータを用いて処理し、グラフを作成することができる
	2	データ処理・グラフ作成演習		○	○		
	2	研究チーム編成	○	○			同じ研究をしたい生徒の人数を調整しながら研究チームを編成することができる
	2	研究計画の作成①	○	○	○		2年生から実施される課題研究に向けて計画を立てることができる
	2	研究計画の作成②	○	○	○		
	2	研究計画の作成③、データサイエンス テスト	○	○	○	○	研究に関する知識が深まっているかを確認する小テストを実施し、グループ全体として理解が深まったかを確認する
	2	研究テーマ討論会	○	○	○		研究が1年間を通して活動することができる内容かをお互いに確認することができる
	2	ポートフォリオ入力	○	○	○		1年間の活動をポートフォリオに入力することができる

【基本情報】

教科	探究	学年	1年	教科書	なし
科目	探究基礎	単位数 (年間予定コマ数)	1 (28)	副教材	なし
科目概要	2年次で履修する『課題探究』または『課題研究』に向けて、課題を発見する過程を体験する。また、課題発見プログラムを通じて「探究の手法」や「プレゼンテーション」の基礎についてグループ活動を通して学習する。最終的には、2年次に取り組む『課題探究』または『課題研究』のテーマ決めを行う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで協力して取り組み、議論し考察することができる。</li> <li>・個人やグループでプレゼンテーションをすることができる。</li> <li>・グループで協力して「研究手法」「検証方法」を取り入れた「探究計画」を作成できる。</li> <li>・グループで協力して研究テーマを設定できる。</li> </ul>				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な課題に対してグループで積極的に資料を調べたり議論をして問題を解決します。</li> <li>・グループ内だけではなくグループ間でも意見交換を行います。</li> <li>・プレゼンテーションや活動内容について客観的な視点で振りかえるために、自己評価および生徒同士の相互評価を行います。</li> </ul>				
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内での活動を重視し、お互いに協力して活動する。</li> <li>・グループにかかわらず、積極的に意見を交わしたり議論をする。</li> </ul>				
家庭学習	・授業の内容や研究テーマを決めるに当たって、必要な情報や資料を積極的に集めておくことを推奨する。				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 探究する力	物事の中から問題を見だし、解決方法を探して計画を立てようとしている。	25%	授業ごとに提出する「振り返りシート」およびレポートなどを資料として、各項目について到達度を評価する。
B. 対話する力	情報をもとに自分の考えを形成し、文章や発話によって表現しようとしている。	25%	
C. 協働して創り出す力	思いや考えをもとに構成し、個人や集団としての考えを形成しようとしている。	25%	
D. 自律して活動する心	互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解しようとしている。	25%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
1 ガイダンス	2	「探究基礎」のねらいと学術分野の研究	○	○			「探究基礎」を学ぶ意味を理解するとともに、学術分野を知ること、自分が設定した課題がどの学術分野にあてはまるかを理解することができる
2 探究の手法	2	課題発見プログラム 1枚の写真を撮ろう	○	○	○		地域社会のなかで疑問に感じたことを写真に撮り、課題や解決方法を見いだすことができる
	2	問題意識を共有しよう	○	○	○		1枚の写真から出た課題や解決方法をグループ内で共有し様々な問題の解決方法を考え合うことができる
	2	お気に入り論文を探そう	○	○	○		1枚の写真から見いだした問題を解決するために、先行研究の論文をキーワードをもとに検索することができる
	2	お気に入り論文を紹介しよう		○	○		前回選んだ論文について、選んだ理由・内容をグループワークを通して発表し、発表者以外は内容について質問することができる
	3	大学模擬講義	○		○		自分が課題として持っている分野についての講義を受講することで、研究についての手法を学ぶことができる
	2	問題解決の方法をまとめよう	○	○	○		1枚の写真からの取り組みをまとめ発表し、相互評価する
3 テーマ設定 とグループ活動	2	仮ゼミ編成	○	○			学年全員で仮ゼミを編成し、北海道教育大学旭川校の学生によるアドバイスを受けながら活動していくことができる
	2	課題探究中間報告会	○	○	○	○	2年生のポスター発表を見学し、プレゼンテーションの手法を学ぶとともに、今後の研究の参考にすることができる
	2	デザインの作成③・教育大事前学習	○	○	○		自分独自の研究デザイン（研究課題は自由）をまとめる 訪問するゼミの研究について調べ、質問事項を考える
	2	教育大訪問	○	○			自分が課題として持っている分野についての講義を受講することで、課題に対するアドバイスや研究手法を学ぶことができる
	2	デザイン作成④	○	○			自分独自の研究デザイン（研究課題は自由）をまとめることができる
	2	模造紙作成	○	○			自分が提案する研究デザインを模造紙にまとめ、発表のための準備をすることができる
	3	模造紙発表会	○	○	○		自分以外の人がつくった研究デザインを読んで、研究してみたいデザインを見つけることができる
	2	研究デザイン・ゼミ希望調査	○	○			前回の研究したいと思ったデザインをもとに、ゼミの希望をとる

【基本情報】

教科	スーパーサイエンス	学年	1年	教科書	なし
科目	スーパーサイエンス(SS) 研究I	単位数 (年間予定コマ数)	1 (32)	副教材	なし
科目概要	2年次で『課題研究(グループ制)』を進めるために、研究の手法やプレゼンテーションの基礎を学ぶとともに、研究テーマを検討し研究計画を作成する。 ① 地域巡検：地域のフィールドワークを通してその手法を学ぶとともに、地域の自然環境や身近な現象に目を向ける。 課題研究に向けて探究活動を行い、研究テーマを模索する。 ② プレゼンテーション講座：地域巡検の課題や探究活動についてプレゼンテーションを作成し、基礎となる技術や姿勢を身につける。 ③ 『課題研究(グループ制)』のテーマ設定及び研究計画の作成				
到達目標	2年次の『課題研究』に向けて、以下の点がきちんと考えられた研究計画が立てられる。 ○現実的な計画である ○仮説を検証するために、適切な実験・観察及び調査等が盛り込まれている ○実験及び観察方法に再現性があり、創意工夫がなされている ○研究のまとめ及び発表までが日程に考慮されている				
授業の進め方	・教科書及び副教材(問題集等)はありません。 ・配付されるプリントに従って進められます(プリントは専用ファイルに保管)。 ・各単元においてレポートやプレゼンテーションを作成する。				
留意事項	・グループ内での活動を重視し、お互いに協力して活動する。 ・グループにかかわらず、積極的に意見を交わしたり議論をする。				
家庭学習	・授業の内容や研究テーマを決めるに当たって、必要な情報や資料を積極的に集めておくことを推奨する。				
備考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	それぞれの取り組みにおいて、科学的知識に対する関心を高め、意欲的に追求しようとしているか。	25%	各取り組みにおいて、上記4観点を1～複数指定し、提出物等で評価する。発表を伴う取り組みにおいては、発表資料及び態度等も評価に加える。さらに、小テスト等の結果で評価する場合もある。
B. 思考・判断・表現	それぞれの取り組みにおいて、的確な判断がなされ、論理的に思考ができ、さらに適切に表現ができているか。	25%	
C. 技能(資料活用能力)	それぞれの取り組みにおいて、技能の習得及び資料の活用が適切になされているか。	25%	
D. 知識・理解	それぞれの取り組みにおいて、科学的知識等の理解がなされているか。	25%	

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
1 オリエンテーション	1	「SS研究Ⅰ」のねらいについて				○	この一年間のSS研究の取組などについて理解する。
2 地域巡検Ⅰ (嵐山北荊野草園・神居古潭)	2	・事前学習	○	○	○	○	地域の自然を理解するとともにフィールドワークを実際に実施することで、その手法を身につけ、研修内容をまとめて発表できる。
	6	・北邦野草園・神居古潭でのフィールドワーク	○	○	○	○	
	2	・研修のまとめと発表	○	○	○	○	
2 2年生課題研究 中間報告会	2	・2年生の課題研究中間発表（ポスター発表）に参加する。	○	○	○	○	2年生の課題研究に対して積極的に考え、質問できる。
3 地域巡検Ⅱ	2	・事前学習	○	○	○	○	地域の自然を理解するとともにフィールドワークを実際に実施することで、その手法を身につけ、研修内容をまとめてレポートを作成し、発表できる。
	6	・旭山動物園での実習	○	○	○	○	
	1	・レポート作成	○	○	○	○	
	2	・報告会					
4 プレゼンテーション 演習	2	・プレゼンテーションソフトを使った実習	○		○		プレゼンテーション作成の基礎を理解する。
5 課題研究計画	1	・オリエンテーション					課題研究のテーマを自ら考え、適切に研究計画を立てることができる。
	4	・課題研究の計画作成	○	○	○	○	
	1	・活動のまとめ				○	